



「老農時代」の新活用を

学園花の村特別顧問 津野幸人

農政の新しいスローガンは、農産物の輸出振興だ。これに異論を唱える気はないが、新規参入の若者が増加した、という事実には首をかしげたくなる。一体、中山間地にある小区画の農地で、どのようにして生産性を向上させるのか。過去も現在も日本の農地と農業を守ってきたのは兼業農家であり、老人労力であるという事実を直視してほしい。

資本主義発展の原動力である工業では、生産性の向上が必須の条件であるが、能率、効率を追求する行為自体に精神の劣化を招く要因を含んでいる。俗な言葉でいえば「手抜きもバレなきや儲けだ」という根性だ。事実、国際的に有名な企業によるデータ改竄（かいざん）はいくつか報道されている。大企業の社長と幹部が、「申し訳ありませんでした」とテレビカメラにむかって深々と最敬礼をするのは、もはや珍しい光景ではない。やや古い話だが、京セラ名誉会長の稲盛和夫氏は、これまで企業経営者として重視された才覚よりも、「人間として

の基本的な倫理観を確立し、それを守り通そうとする生真面目な社会をつくる」ことこそ日本を再生する最善の道と指摘されている。（朝日新聞・私の視点・〇二、一〇、二三）。稲盛氏のいう基本的な倫理とは、嘘を言うな、正直であれ、という子供の頃に教わった規範である。傾聴すべき発言だとは思いますが、生真面目な社会をつくる方法論が欠落している。

わが国の企業は、肉体労働の日当の安い国へ工場移転を行なったが、そこで生産された安価な工業製品が本国経済を直撃している。またTPP協定で外国農産品の脅威にさらされているのは農業とても同様である。この状況の打開策は次の三つだ。

第一、科学上の新発見に基づいて、これまでになかった新製品を造る。―日本の大企業改革はこの路線で進んでいる。

第二、誰もが欲しいものを作る。―わが国ではさし当たっては安全で美味しい食品であろう。

第三、再生産のきかない物をつくる。―心のこもった工芸品や身体機能の補助用具など、高齢化社会への対応を考えれば商品開発の分野は広大である。

右の第一の策は大量消費財の開発で、従来の経済発展路線から一步も出ない。生産技術の拡散で新製品の優位性は消滅する。

第二、第三は、きわめて生産能率は悪いが、

豊かな人間味のこもった商品を目指す産業である。これが新しい世紀の産業として最も期待できる。だが、その前提として従来の唯物的発展信仰を克服するところの新たな価値観の確立が必要だ。心のこもった思いやりのある商品の生産に生き甲斐を覚える生産者が期待される人間像だ。

右の条件は有機農業が満たしていると私は思う。農業生産には手抜きや数値改ざんの入り込む余地がない。もしあるとすれば農薬使用の履歴だ。だが有機農業には人間の嘘は通用しない。農薬の有無は虫食い跡が証明してくれる。

老人の労働についてWHO（世界保健機関）は面白い実験をやっている。ガンガン仕事ができる人に、仕事をさせないで好きなだけ遊ばせる。すると簡単に成人病の兆候が表れるそうだ。仕事好きで、それに生きがいを感じる人は、仕事に夢中になることで、健康に役立つ脳内ホルヒネ（ドーパミン）を作り出すことができる。と医者は解析している（春山茂雄著・脳内革命）。

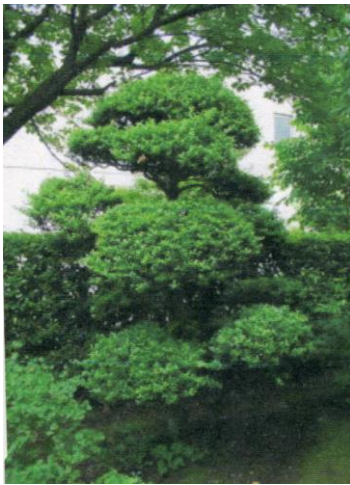
わが国の中山間地域の農業者で六〇歳といえど若い方だ。九〇歳を過ぎても鋤を手放さない人は多い。鋤を持ち大地に立つと体に力が漲ってくるのを実感する。定年で職を離れた人は、ご自身の健康のためにも小さな有機農業を始めましょう。

庭木として愛されるツゲ(柘植)の木

小 関 栄

一般にツゲの木(柘、柘植)は樹液が粘りあるモチノキ科の木であり、植物学上のツゲはツゲ科で、ホンツゲとして区分されている。

モチノキ科のツゲには種類が多くイヌツゲ、ヤマツゲ、オオツゲ、タマツゲなどと多くあり、四季を問わずに青々としている。だから漢名では冬青(dongqing)と呼ばれ名は体を表して面白い。英名は japanese holly でヒイラキ(柘)の仲間である。



ツゲの木は、日本古来の木で暖地に多く自生して年中青々としているので剪定して樹形を整え庭木にして愛されている。だが、これを主題にした詩歌や俳句が全く見当たらないのは何故だろう。

ツゲは晩春に可愛らしい淡黄色の花(上の写真)を付け、夏には豆粒ほどの実になる。木の質が固いので将棋の駒や櫛に使われ馴染のある木である。

我が家では沢山の大小のツゲが庭に植えられ風情を添えている。(左はツゲの木の写真 30.2.15 撮影)

小雪舞う 緑のツゲも 薄化粧 淡水

30年度布マルチ稲作の取り組み

学園はなの村 藤本将

29年度は代掻きの不徹底から田んぼに高低差が生じたため布浮かべ灌漑に失敗、ヒエが繁茂する結果となりました。30年度はこの失敗に鑑み代掻きを丁寧にやり布マルチ敷設前後 1 ヶ月あまりは付きっきりで田んぼを管理する体制で臨む予定。引き続き里山倶楽部には応援をお願いする予定ですが、とりわけスキルの向上から特定の方には格段のご支援を依頼する予定にしておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。布マルチ稲作は「学園はなの村」の理論的指導者である鳥取大学名誉教授津野幸人先生の考案になるもので

1. 農薬・除草剤を使用しない安全な農法です。
2. 田の草取りから解放される省力的な農法です。
3. 美味です。
4. 人件費を回収できる有利な農法です。
5. 自然と環境にやさしい農法です。

布マルチ稲作は学園はなの村が誇るべきニューテクノロジーです。それを私達の処で実証したいと思っています。

里山倶楽部的幸福感

溝口博之

学園花の村も二十周年、はなの村だよりも百号とは早いものです。私は十数年ほど前に「みんなであらう小さな農業」のお誘いを受け光陽の里で畑仕事を始めました。仕事を通して、食と健康、環境問題は勉強していましたが、実際に無農薬、有機栽培を始めてみて改めて健康と環境の基本は農にある、と認識を新たにしました次第です。しかし、日本の農業は花の村の理想とは格差が広がる一方です。これは本来国民の健康を守る「食」、特に米の生産が自由主義経済に翻弄され、金もうけ社会から取り残されたからでしょう。労多くしてゼニにならないから後継者



皆で育てた蕎麦でパーティー



富士山世界遺産センター見学

ラリーマン化して少子化が進み農地が荒れ始めたのです。

外国に車を売って設けたゼニで食料を買おう、という発想がおかしいのですが、これは国民の幸福感の質が変わらなければ変わっていかない。物欲、便利さより、人の和や不便を楽しむ、グルメより本来の味を楽しむ・・・といううな里山倶楽部的幸福感が広がらなければ、日本はおろか人間世界の終末はそんなに遠くないかもしれません。

里山倶楽部は過程を楽しむ会だと思っています。米、大豆、ゴマなどの農作物を作って成功したり失敗したり、ツリーハウスやピザ窯を作る楽しみ利用する楽しみ・・・今はバーベキューハウス

周りの整備をして、多くの人に楽しんでもらえる環境づくりに取り掛かっていきます。もうじきワラビやタケノコのシーズン、桜のシーズンも始まります。メンバ

「活き粋ばあばの学舎」だより(4)

ーは目標達成に歯を食いしばって頑張るのは苦手、「ねばならない会」は続かないでしょう。
ひしこいて金を追求する社会はいやですね。

活き粋ばあばの学舎 柴 桂子



まだ強い遠州灘の風の吹く

中、路の臺が畑の隅隅のあちこちから芽を出し、いち早く春を知らせてくれた。庭の紅梅も満開となり、遅れて白梅が咲き始めた。椿や木蓮や山茱萸の蕾も膨らみ、それぞれがかな色を付け始めている。蜜柑は最後の実を鳥たちが中をきれいにしつつ食べて食べた。表皮の堅いネーブルや柚子が鳥につ

つかれずに、冬中黄色の実を残してくれている。

厳冬の中、菜の花や紫の茎のオースタムボエムが花を咲かせ、淋しくなった冬の畑を飾ってくれた。畑の地中には里芋、人参、大根、牛蒡が埋まっている。小松菜、菜物が虫に食べられた後、残っている。ブロッコリーが遅まきながら実を付け始めた。キャベツは虫に食われた後大きな玉に成長し、眺めるのが楽しく収穫できずにいる。庭の半分は専門家に頼み、念願の台杉を植えてもらった。あと半分は駐車場や花壇を手作りし、何とか庭が完成した。

1月、外は厳冬でも、縁側の日差しは暖かった。歌会始の儀式を何年かぶりにテレビで見ることが出来た。来年の御題が「光」と発表された5分後に、詠んだこともない短歌が口を衝いて出た。

栄光も なき80年 縁側で 陽光浴びて 針仕事することのできる今の生活は、人生最良の日々である。

Ⅲ. 29年度会計報告(29/1 ~ 29/12)

(単位 円)

	収 入		支 出
会費収入	53,000	集会室固定資産税	23,300
(団 体)	10,000	集会室地代	30,000
(個 人)	43,000	全報連会費	20,000
推 譲	192,000	美合セミナー参加	10,000
(会 報)	120,000	会報発行費用	120,000
(その他)	72,000	総会費	6,000
会議室使用料	26,700	布マルチ代	82,620
全報連助成	100,000	布マルチテキスト	30,432
預金利息	2	電気代	3,600
		香典	10,000
		切手代ほか	6,112
		剰余	7,156
計	345,002	計	345,002

預金残 2017年12月 505,853

2016年12月 498,697

差し引き 7,156

Ⅳ. 30年度資金計画(30/1~30/12)

(単位 円)

	収 入		支 出
会費	53,000	集会室固定資産税	23,000
会員(団体)	10,000	集会室地代	30,000
会員(個人)	43,000	はなの村だより 発行費用	80,000
推 譲	152,000	全報連会費	20,000
会報発行	80,000	総会費	5,000
その他	72,000	布マルチ推進費	40,000
計	205,000	計	205,000

はなの村だより

学園花の村機関紙第100号春 2018年3月1日(木)

編集兼発行人 伊藤公博 メール# mitoh@alto.ocn.ne.jp

電話 042-636-8290 Fax 636-8291

〒192-0914 八王子市片倉町937-78

Ⅰ. 29年度実績(29/1~29/12)

(1) 里山倶楽部の楽しみながら農業に勤しむ活動

・ツリーハウスの建設

倉馬の里の東側、樹木の一部を利用してツリーハウスを作り、市内を眺めながら会食を楽しんでいます。

・ピザがまの設置

大石さん、竹尾さんが中心となって精力的に取り組み、無事完工しました。これまた「倉馬の里」の名物になること請け合い。女性陣の作るピザは絶品

・集会室の大掃除

昨年の暮れ急遽集会室の大掃除を敢行しました。これまた女性陣の活躍で室内は綺麗に整理されました。

・正月は川根温泉で新年会

今年も新年会は泊まり込みで湯に浸りながらの新年会。翌日は浅間神社で「無事」と「豊作」を祈願しました。

(2) マルチ稲作の普及活動

水管理が容易な初馬地区で推進を図ったが布浮かべ灌漑が不徹底でヒエだらけとなりました。

(3) はなの村だよりの定期発行

2ヶ月に1回定期発行年6回発行

(4) 食の安全をに関する女性グループとの連携

強化は緒についたところです。

Ⅱ. 30年度事業計画

(1) 昨年設置したツリーハウス・ピザがまを活用した里山

倶楽部の活動支援

(2) 食の安全を求める女性グループとの連携強化

(3) 布マルチ稲作の普及

お願い：平成30年度の年会費3,000円を下記へお送りください。よろしくお願いいたします。

宛先：〒215-0011 川崎市麻生区百合丘3-3-19 藤本将
郵便局から送金する場合：

口座番号 12330 38427971

受取人 フジモト ススム

他金融機関から送金する場合：

店名 二三八(読み ニサンハチ) 店番 238

預金種目 普通預金 口座番号 38427971

受取人 フジモト ススム